

一切女人章(五帖第十七通)

それ、一切の女人の身は、後生を大事におもい、仏法をとうと
くおもう心あらば、なにのようもなく、阿彌陀如来をふかくたの
みまいらせて、もろもろの雑行をふりすて、一心に後生を御た
すけ候えと、ひしとたのまん女人は、かならず極樂に往生すべき
こと、さらに疑あるべからず、かようにおもいとりてののちは、ひたす
ら彌陀如来の、やすく御たすけにあずかるべきことの、ありがたさ。
またとうとさよとふかく信じて、ねてもさめても、南無阿彌陀仏
南無阿彌陀仏と、申すべきばかりなり、これを信心とりたる。
念仏者とは申すものなり、

あなかしこ　あなかしこ

一切女人章の大意

浄土に往生させていただくことを大切に思い、み仏の教えを尊く思う心がある女性は、自力にたよることをやめ、阿弥陀如来を深く信じて、後生をおたすけくださいと一心にたのみ、おまかせするならば、浄土に往生することは疑いありません。

このように心得た後は、如来がお救いくださることのありがたさ、尊さを思って、寝てもさめても南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と念仏するばかりです。これを信心決定した念仏者ということです。